

特別企画：長野県女性社長分析

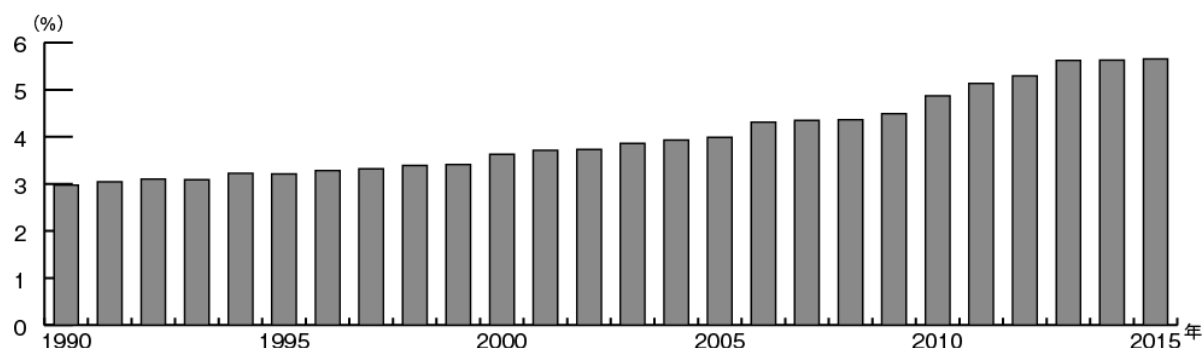
長野県の女性社長比率、今年 3 月時点では 5.6% 業種間・規模間などで格差、年商 10 億円以上の企業では 1.3%

はじめに

「すべての女性が輝く社会づくり」を重要課題のひとつに掲げる安倍内閣は昨年 8 月、女性活躍推進法を成立。今年 4 月 1 日からは労働者 301 人以上の大企業で女性の活躍推進に向けた行動計画の策定などが義務づけられるようになった。既に一部の業種では人手不足が顕在化しているが、従業員・管理職を問わず、女性の登用は各企業にとって重要な課題に浮上している。

これまでに行った調査で、女性社長比率が低いことが判明している長野県。近年、上昇傾向をたどっているが、2015 年 12 月時点の比率は 5.7%で、47 都道府県の中では低い方から 2 番目だった。帝国データバンクでは今回、企業概要ファイル「COSMOS 2」（146 万社収録）から「株式会社」「有限会社」の社長データを抽出（2016 年 3 月時点）。このうち、長野県内企業の女性社長に焦点を当て、業種別や地区別、年商規模別に女性社長比率を抽出し、分析した。

長野県女性社長比率の推移(1990年～2015年、「長野県社長分析」より)



調査結果（要旨）

■「不動産業」15.7%、「建設業」2.6%など業種間で格差

業種別に女性社長比率をみると、最も高かったのが「不動産業」の 15.7%、最も低かったのは「建設業」の 2.6%だった。「製造業」も 3.4%と平均を下回っている。

■年商規模が大きくなるほど低くなる女性社長比率

年商規模別の女性社長比率は、「1 億円未満」が 7.1%で最も高く、規模が大きい区分ほど低下している。「10 億円以上」の 3 区分を合わせた女性社長比率は 1.3%。

■「30 代」3.0%、「40 代」3.4%、若い世代で低い女性社長比率

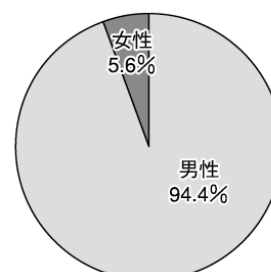
社長の年代（年齢）別では、年代が高いほど女性社長比率が高まる傾向が窺える。「30 代」は 3.0%、「40 代」は 3.4%と低く、社会基盤の整備の遅れと関係している可能性もある。

1. 長野県の女性社長比率は 5.6%、全国を 2.0 ポイント下回る

2016 年 3 月時点における県内企業の女性社長比率は 5.6%（対象は 2 万 719 社）。全国的女性社長比率は 7.6%で、長野県は全国を 2.0 ポイント下回っている。47 都道府県別では低い方から 2 番目。

長野県の女性比率の低さは今に始まったことではない。毎年行っている「長野県社長分析」でも女性社長比率を算出しているが、近年はこの低い方から 2 番目が定位置である。

長野県 女性／男性社長比率



2. 「建設業」の女性社長比率は 2.6%、基幹産業の「製造業」は 3.4%

業種別に女性社長比率をみると、最も高かったのは「不動産業」の 15.7%。「小売業」と「サービス業」が 8.7%で続いている。逆に最も低かったのは「建設業」の 2.6%。次いで、「製造業」の 3.4%。「不動産業」と「建設業」の間には 13.1 ポイントの差が生じている。

社数が最多の「建設業」、さらに長野県の基幹産業とされる「製造業」の低さが目を引く。全国でも、「建設業」や「製造業」の女性社長比率は相対的に低い、長野県はそうした業種（産業）の集積度が高く、それが全体を押し下げる要因となっている。一方、「その他」を除く 7 業種で、全国より高かったのは「不動産業」（全国的女性社長比率は 15.4%）だけで、残りの 6 業種はいずれもいずれも長野県の方が低かった。

業種別 女性／男性社長比率

	0%	20%	40%	60%	80%	100%
建設業	2.6			97.4		
製造業	3.4			96.6		
卸売業	4.7			95.3		
小売業	8.7			91.3		
運輸・通信業	6.0			94.0		
サービス業	8.7			91.3		
不動産業	15.7			84.3		
その他	5.7			94.3		

3. 地区別では「中信」が唯一 6%台、業種間ほど大きな差は発生せず

4 地区別の女性社長比率は、「中信」が 6.1%で最も高かった。唯一、6%台に達している。以下、「東信」5.8%、「北信」5.6%、「南信」5.2%の順。最も高い「中信」と最も低い「南信」の格差は 0.9 ポイントと、業種間と比べ大きな差は発生していない。「南信」が最も低いのは、同地区における「製造業」の比率の高さが背景にある。

市郡別では、社数に大きな差があるため、単純な比較はできないが、高い方から「下高井郡」（9.2%）、「東筑摩郡」（8.4%）、「北佐久郡」（7.9%）の順。以下、「東御市」（7.7%）、「茅野市」（6.9%）、「松本市」（6.4%）、「安曇野市」（6.4%）、「小諸市」（6.2%）、「長野市」（6.1%）、「小県郡」（6.0%）までの 6 市 4 郡が 6%を超えた。

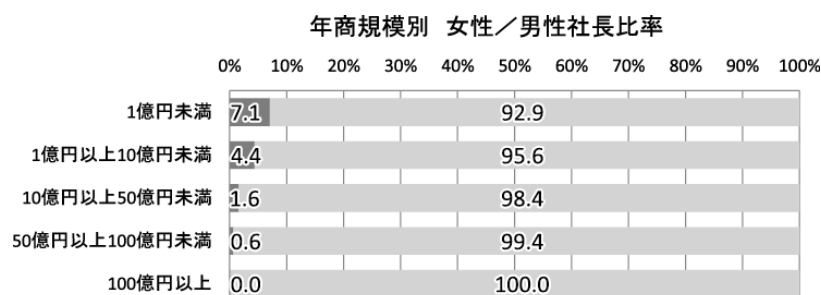
地区別 女性／男性社長比率

	0%	20%	40%	60%	80%	100%
北信	5.6			94.4		
東信	5.8			94.2		
中信	6.1			93.9		
南信	5.2			94.8		

4. 年商「1億円未満」7.1%、「10億円以上」1.3%

企業の年商規模別に女性社長比率を算出してみた。社数が最も多い「1億円未満」では7.1%となったが、「1億円以上10億円未満」4.4%、「10億円以上50億円未満」1.6%、「50億円以上100億円未満」0.6%と下降し、「100億円以上」の区分では該当がなかった。「10億円以上」の3区分を合わせると、女性社長比率は1.3%にとどまる。

長野県の女性社長比率は5.6%と低いが、特に規模が大きくなるほど顕著。ただ、最も高かった「1億円未満」でも7.1%と、全国の女性社長比率7.6%を下回っており、全体的な低さは否めない。

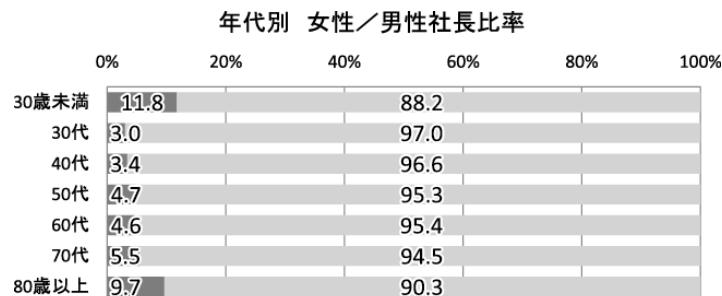


5. 若い年代層で低い女性社長比率

社長の年齢が判明している1万8655社を対象として、社長の年代別に女性社長比率をみると、該当数が圧倒的に少ない「30歳未満」を除くと、年代が高くなるほど上昇する傾向がみてとれる。

「80歳以上」が9.7%に達しているのに対し、「30代」は3.0%、「40代」でも3.4%にとどまる。

先頃、匿名ブログが発端となり、女性が活躍できる社会基盤についての議論が国会でも繰り広げられたが、若い年代の比率の低さは、社会基盤の整備や周囲の理解が進まない現実を反映したものとの見方もできる。



※社長の年齢が判明している1万8655社を対象

6. 社長就任経緯、「同族承継」が半数を超える

社長への就任経緯が判明している女性社長企業394社を対象として、就任経緯別に分類してみた。最多は「同族承継」で55.3%。半数以上が同族から引き継ぐ形で社長に就任している。2番目に多かったのは「創業者」のは34.0%で、両者で全体の9割近くを占めている。

男性社長と比較すると、「同族承継」が10.0ポイント高いことが特徴的。女性の場合、社長である夫の死去などに伴い後任に就任するケースが一定程度あるため、こうした結果につながっているものとみられる。一方、今後女性社長数・女性社長比率が増加するためには、「創業者」、あるいは「内部昇格」による就任というケースが拡大するかどうかのポイントとなる。

■就任経緯別(女性社長)		■就任経緯別(男性社長)	
就任経緯	構成比(%)	就任経緯	構成比(%)
創業者	34.0	創業者	37.4
同族承継	55.3	同族承継	45.3
買収	1.5	買収	1.5
内部昇格	6.1	内部昇格	11.6
外部招聘	0.5	外部招聘	1.7
出向	0.0	出向	1.1
分社化の一環	2.5	分社化の一環	1.3
合計	100.0	合計	100.0

※就任経緯が判明している394社を対象 ※就任経緯が判明している9389社を対象

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 松本支店 担当:奥原

TEL 0263-33-2180 FAX 0263-35-7763